

地方創生SDGs 官民連携 プラットフォーム



私たちは持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



マインドフルネス SIMT は SDGs のすべての Goals に関係

西田哲学の実践論には、ポイエシス即プラクシスの指針があります。

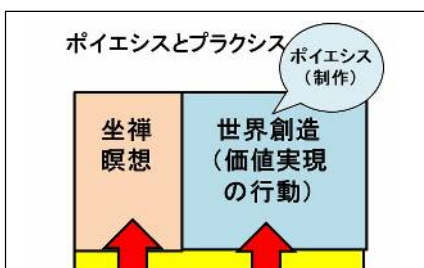
真剣に検討してみると、西田哲学のいうポイエシス即プラクシスは、すべての SDGsのGoalsに関連しています。プラクシスとは、人間内面の成長だからです。どのような事業であろうとも、遂行するのは人間だからです。その時に、人道的な倫理的な配慮をもって、つまり自分の行為がエゴイズムではないかを観察し抑制しながら事業を遂行しているかを自己批評することは誰もが実現すべきだからです。この点を、もう少し詳しく述べます。

(編集中です)

(以下のターゲット出典) imacocollabo

[SDGs\(持続可能な開発目標\)17の目標&169ターゲット個別解説 | 一般社団法人イマココラボ\(imacocollabo.or.jp\)](https://www.imacocollabo.or.jp/)

ポイエシス即プラクシス

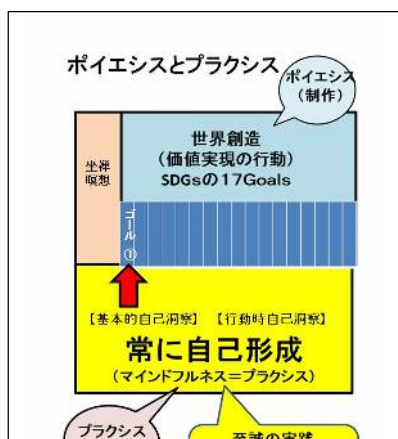


ポイエシス即プラクシスとは、世界創造と自己形成ですが、ポイエシスは SDGsでいえば、次です。

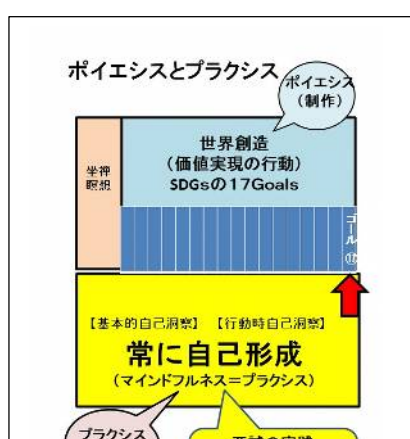
1. 貧困をなくそう
2. 飢餓をゼロ
3. すべての人に健康と福祉を
4. 質の高い教育をみんなに
5. ジェンダー平等を実現しよう
6. 安全な水とトイレを世界中に
7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに
8. 働きがいも経済成長も
9. 産業と技術革新の基盤をつくろう
10. 人や国の不平等をなくそう
11. 住み続けられるまちづくりを
12. つくる責任 つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を
14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさも守ろう
16. 平和と公正をすべての人に
17. パートナーシップで目標を達成しよう

この時、同時に内面の自己成長をするのがプラクシスです。
次の図は、Goal 1とGoal 17を示しましたが、Goal 2から16も同様です。

Goal 1



Goal 17



Goal 3 が関連する自治体、企業、団体であれば、その自治体なども、マインドフルネス SIMT とパートナーシップで行うことができます。

なぜなら、Goal 3 を遂行するのも、人間だからです。Goal3を人が外部に物品、サービス、技術を実行する時に、その人の内面の心が独断的ではなくて、至誠であるのがよいからです。

(編集中です)

<https://blog.canpan.info/jitou/archive/4718>

ブログに掲載

(注1)SIMT:自己洞察瞑想療法、Self Insight Meditation Therapy

参照:大田健次郎(2013)『うつ・不安障害を治すマインドフルネス』佼成出版社

大田健次郎(2014)『不安、ストレスが消える心の鍛え方

——マインドフルネス入門』清流出版

ホームページでの紹介:top>マインドフルネス心理療法 SIMT とは